

話題を追う

# 商品先物取引、195兆円超す

## 1位は石油、2位貴金属、3位農産物

編集部

商品先物取引の取引金額が急増しています。2002年度の取引金額は195兆5,690億円。前年度の149兆1,160億円を31.2%も上回り4年連続、史上最高を記録しました。これは同年度のGDP（国内総生産）約500兆円の4割にも達する膨大なものです。ではどのような商品が多く取引されたのでしょうか。

1位はイラク危機などに揺れた石油。117兆9,030億円と前年度より44%も増え、全体の60.3%を占めました。石油が上場されたのは1999年のことでしたが、米国、英国でも石油関連は商品先物取引ではトップクラスの取引金額となっており、日本もわずか4年で同じような形になってきました。

2位が金、白金など貴金属。43兆9,740億円と前年度を34.5%上回りました。よく「有事の金」といわれ、世界に緊張が走ると金は買われますが、2002年度も世界の緊張を映し、

定石通りの動きになりました。第3位が大豆、トウモロコシといった農産物で、19兆2,870億円。こちらは人気を石油、貴金属に奪われ、21.4%減少しました。以下、ゴムとゴム指数が9兆3,320億円、アルミニウムが1兆8,120億円、農産物指数が1兆5,090億円などとなっています。

また、昨年度、国際生糸で初のドル建て取引が行われましたが、この取引も1,119万ドルありました。2002年度に新規上場された商品も、冷凍エビは1,880億円、ニッケルも1,050億円の取引がありました。ではなぜ、このように取引金額が増えたのでしょうか。

最大の理由は超低金利下、多くの投資資金が入ってきたことです。株式低迷で、世界的に「カネからモノへ」の動きが高まっており、商品先物取引は世界中どこでも空前の活況を呈しています。その流れが日本にも押し寄せているといえるでしょう。

また、当業者（＝その商品の生産、販売にかかわっている業者）の参加も年々、増えていくことも見逃せません。特に、石油、貴金属に多く入っています。同時に世界的な政情不安から金、石油が、米国の天候悪化で大豆、トウモロコシなどの価格が上昇、これが売買金額を売買数量以上に膨らませた面もあります。

政情不安、天候不安は一過性のものとはいえそうにありません。それだけに「利」を求める取引、リスクヘッジのための取引は今後、ますます増えることでしょう。

